



天国からの年賀状



「9月15日」、717年のこの日、元正天皇が養老の滝（岐阜県）を訪ね、年号を「養老」と変えました。それは、老いた親に孝行する息子の説話にちなんだ名称でした。

この故事にならって、長い間社会につくした老人を敬愛しようということで、1951年にこの日を民間で『としよりの日』と決めました。それから15年後の1966年に、正式に『敬老の日』と制定されて国民の祝日となりました。2003年には、ハッピーマンデー制度により、9月の第3月曜日が『敬老の日』となりました。（今年は9月19日が『敬老の日』）

9月5日（月）の全校集会では、ある学校のA先生のおばあちゃんのお話をしました。

来週の月曜日は『敬老の日』です。要田の子どもたちは、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮らしている児童が多いです。なかなか、「ありがとう」の感謝の気持ちを伝えることはできないと思いますが、自分の気持ちを伝えて欲しいと思います。



校長の話

A先生の父親は、A先生が6歳（小学校1年生）の時に病気で亡くなりました。36歳の若さでした。それからA先生は、兄弟2人母親一人に育てられました。

高校卒業後、大学へ行くためのお金がなく非常に苦しい時に、祖母（父方の祖母）からの助けがあり、2人の兄弟は大学へ進学し勉強を続けることができました。

兄弟は大学を卒業し、一人はサラリーマン、一人は学校の先生になりました。A先生は、祖母が大好きで、休みの日になると祖母の家に遊びに行きました。独身時代も結婚してからも。遊びに行くと必ず話してくれたことは、父親のことだったそうです。中学校を卒業して家業の商売をついで祖母を助けたことなど、A先生の知らない父親の姿をいつも話してくれたそうです。行くたびに同じ話だったようですが…。

A先生の祖母は、90歳を過ぎてても元気に働いていました。「120歳まで生きるんだ。」と話していたそうです。しかし、1995年1月にかぜをこじらせて入院しました。その年の3月8日の朝方、93歳で、A先生の父親（息子）のもとへ旅立ちました。

祖母が亡くなってから6年たった2001年のお正月、A先生のもとに亡くなった祖母からの年賀状が届いたのです。6年前に亡くなったはずの祖母から…

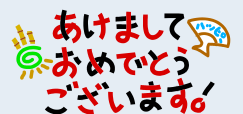
1985年9月、茨城県では「つくば万博」が開かれていて、A先生の祖母も見学に行きました。その中で、15年後に届く「年賀状」を購入し、A先生に出したのです。当時A先生は25歳、会津の小さな中学校で先生をしていました。2ヶ月に1度くらいは実家に帰り、祖母の家にも遊びに行っていたそうです。まだ独身でした。



A先生に送られた年賀状には次のようなことが書かれていたそうです。

この年賀状が届く頃には、〇〇は結婚して子どももいて、幸せな暮らしをしていることと思います。仕事も順調のことでしょう。…

家族を大切にしてください。母親を大切にしてください。まわりの人への感謝の心を忘れずに生活してください。



当時83歳の祖母が自分のことをこんなにまで心配してくれていたことを知ったA先生は、この「天国からの年賀状」を読んで涙を流したそうです。大好きだった祖母からの、6年前に亡くなった祖母からの思いもよらぬ最高のプレゼント、「一生の宝物」と話していました。

9月19日（月）の「敬老の日」には、A先生は祖母のお墓に行ってお話をすると述べていました。現在の生活のこと、家族のこと、仕事のこと、今までいろいろな人に支えられてやってこれたこと、などなど。

そして、「これからも『感謝の心』を常にもって生きていくので、見守ってください。」とお話してくるそうです。





自分の番
いのちのバトン
父と母で二人
父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうしてかえってくる
十代前で千二五
二十代前では一？
なんと百万人を越すんです
過去無量回
いのちのバトンをまわすに
いまついに
自分の番を生きとる
それが
あなたなのいのちです
それがわたしの
いのちです
みつと

子どもたちの感想（〇:学年）

おばあちゃんはりょうりをつくってくれます。こんにやくとおにくのりょうりがおいしいです。おばあちゃん、ながいきしてね。①

みんながんばるからがんばってね。ぼくは、おとうさんみたいにこうじょうちょうになって、おじいちゃんとおばあちゃんをらくにさせたいです。①

おばあちゃんが生きていたら、ケーキとかおかしをおばあちゃんにあげたいです。おばあちゃんはとてもやさしかったです。②

わたしは、ひいおばあちゃんやおじいちゃんを大切にしたいです。長生きをしてほしいです。「けいろうの日」に、「いつもありがとう」と言いたいです。③

15年後にとどく年がじょうというのは、すごいなと思いました。大ききだったおばあちゃんがなくなった6年後にとどいて、A先生はうれしかったと思います。③



天国から年がじょうがくるなんてびっくりしました。わたしには、ひいおばあちゃんがいるので、自分でできる事は、てつだってあげたいです。④

天国から年賀状がくるなんてすごいなと思いました。もうすぐ「敬老の日」になるので、おばあちゃんたちに、やさしくしたりして過ごしたいです。これからもおばあちゃんたちを大切にしたいです。⑤

おじいちゃんとおばあちゃんのありがたさがよく分かりました。ぼくも、やさしく子どもたちといっしょに遊んでくれるおじいちゃんになりたいです。「敬老の日」は「ありがとう」をきちんと伝えて、肩もみをやったり手伝いをします。⑥

話を聞いて、「敬老の日」は「ありがとう」の気持ちを伝えられる日だと思いました。ふだん言えない感謝の気持ちを、祖父や祖母に伝えられたらな、と思います。そう祖父、そう祖母は亡くなってしまいましたが、その分も感謝の気持ちを忘れないようにします。⑥

今の私がいるのは、私の先祖様のおかげで、私が生まれてこれたのはきせきなんだと改めて思いました。おばあちゃんやおじいちゃんも仕事が大変そうなので、これからは手伝いたいと思いました。⑥

わたしは、おばあちゃんのいっしょにあそんでくれるところが好きです。ときどきしかあえないけど、げんきにすごしてね。①

じいじはつりがすきでさかなをもってきてくれます。ばあばはおりょうりがじょうずです。じいじは、あさ、いぬのこたろうといっしょにおくってくれます。ぼくは、じいじとばあばが好きです。いつもありがとう。①

わたしが、天ごくからの年がじょうをもらったら、おばあちゃんに「ありがとう」と言いたいです。けいろうの日には、おばあちゃんのせなかやかたもみをしてあげたいです。②

わたしは、今、おじいちゃんとおばあちゃんとくらしていて、ひいおじいちゃんは、わたしが生まれる前に天国へ行っちゃったけれど、けいろうの日には、どんな人だったか、おじいちゃんが教えてください。今年は、かたたきをしようかな、と思いました。③

おばあちゃん、いつもありがとう。これからも長生きしてね。③

ぼくは、おじいちゃんとおばあちゃんが手をつないでいる写真に題名をつけるなら、「なかよし」とつけたいと思います。これからも、おばあちゃんやおじいちゃんを大切にしたいです。④

私は、いつもおばあちゃんに悪いことをしてしまいました。おばあちゃんは、家で食べる野菜を育ててくれるのに、悪いことをする自分は、ダメだと思うので、敬老の日には、「ありがとう」と「ごめんなさい」という気持ちを伝えたいです。⑤



【敬老会作文発表 6年：Sさん<9/15>】